

決算説明資料

— 2020年6月期決算状況



1. ふくぎんV字回復プラン

- | | |
|--|------|
| (1) 新生ふくぎん3Cプロジェクト 基本方針 | P. 1 |
| (2) 新生ふくぎん3Cプロジェクト数値目標の着実な進展(最終2020年度) | P. 2 |
| (3) 本業収益進展の主な要因 | P. 3 |
| (4) ふくぎんV字回復プランの概要 | P. 4 |
| (5) 有価証券運用の大幅な見直し | P. 5 |
| (6) 具体的内容および2021年3月期の見通し | P. 6 |
| (7) 2021年度以降の収益見通しおよびSBIグループからの支援 | P. 7 |

2. 2020年6月期決算状況

- | | |
|---------------------------|-------|
| (1) 損益状況 | P. 9 |
| (2) 貸出 | P. 10 |
| (3) 預金(NCDを含む)・預かり資産 | P. 11 |
| (4) 健全性 | P. 12 |
| (5) 2020年度(2021年3月期)の決算予想 | P. 13 |

基本方針

第1の **C**

CHALLENGE チャレンジ

事業活動を通じて、地域創生にチャレンジします。

第2の **C**

CUSTOMER SATISFACTION カスタマー サティスファクション

お客様の満足・お客様本位を第一に、お客様の夢の実現と課題解決に、全力で取り組みます。

第3の **C**

CHANGE チェンジ

経営基盤(経営資源の再配置・人材育成・働きがいのある職場)を再構築し、収益力の強化を図ります。

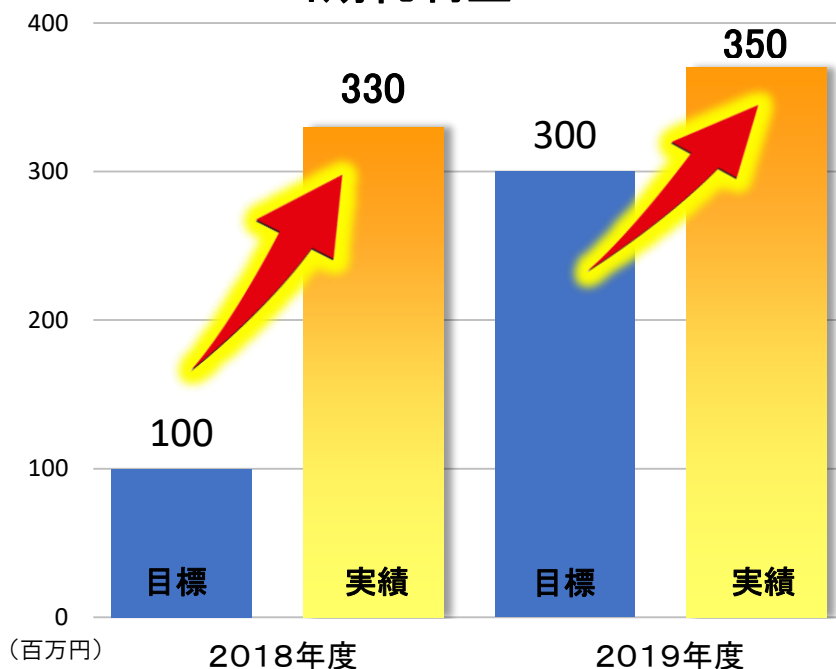
ふくぎんV字回復プラン

1. (2)新生ふくぎん3Cプロジェクト数値目標の着実な進展(最終2020年度) 福島銀行

- 当期純利益は、2018年度目標1億円に対して3.3億円、2019年度目標3億円に対して3.5億円と着実に目標達成。
- 事業性融資先数は、最終年度目標5,000件に対して、2019年度で5,117件と早期達成。
- 自己資本比率は、最終年度目標8%に対して、2019年度は7.89%の実績で健全性を維持。

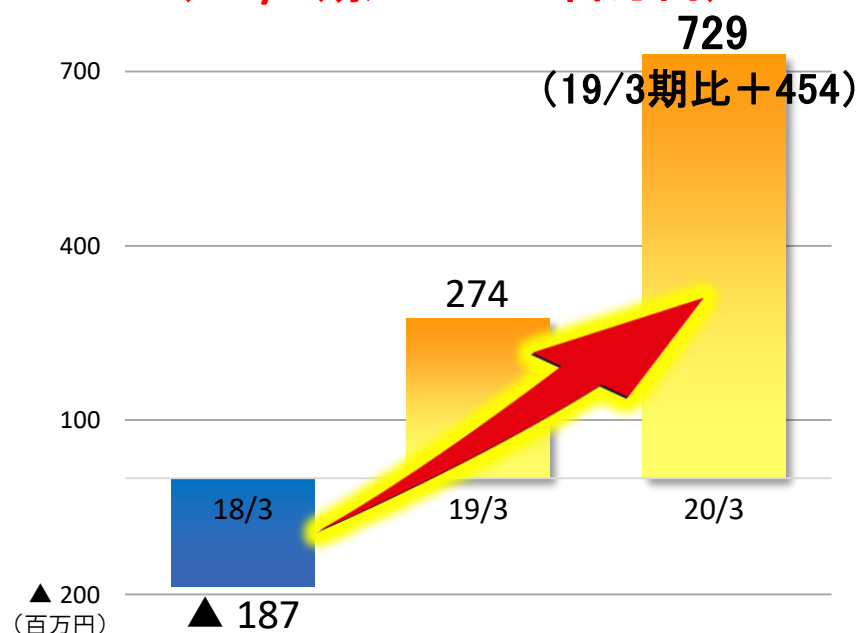
- 新生ふくぎん3Cプロジェクトの着実な進展により、本業収益(投信解約益を除くコア業務純益)は、729百万円(18/3期比+916百万円)。
- 19年3月期に4年振りに黒字転換し、2年連続で本業収益は黒字化を達成。
- 20年6月期は、5百万円と黒字を確保。

当期純利益



本業収益

(18/3期比+916百万円)

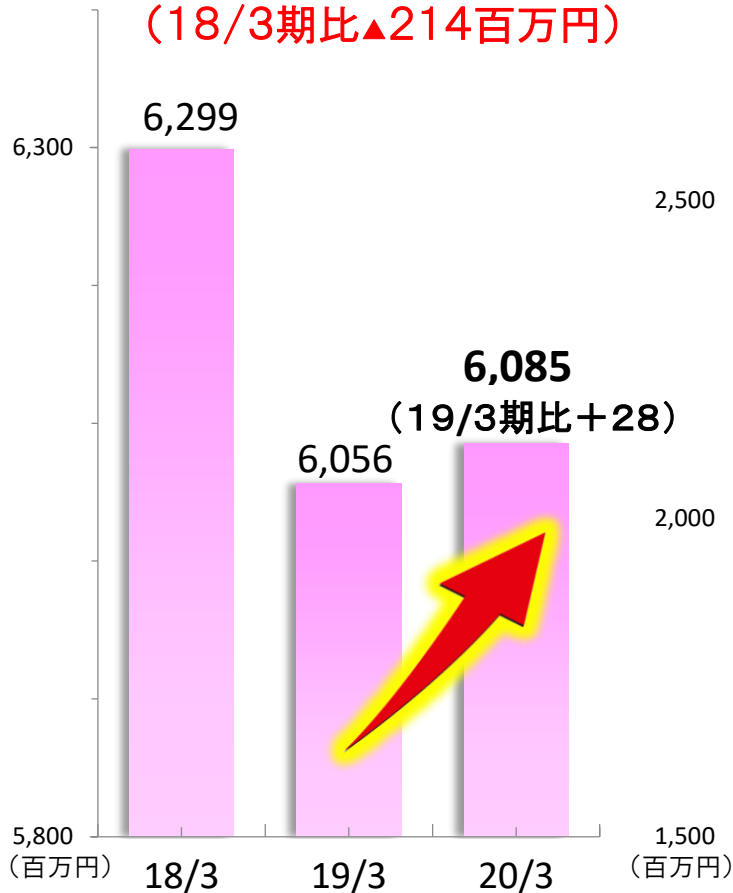


1. (3)本業収益進展の主な要因

- 貸出金利息収入は、20年3月期に12年振りに前年度を上回る。6月期は1,566百万円(前年同期比+73百万円)。
- 受入手数料は、20年3月期に2,653百万円と過去最高。6月期は582百万円(同+8百万円)。
- 営業経費は、20年3月期に7,737百万円と、物件費は4年連続で削減。6月期は1,949百万円(同▲52百万円)。

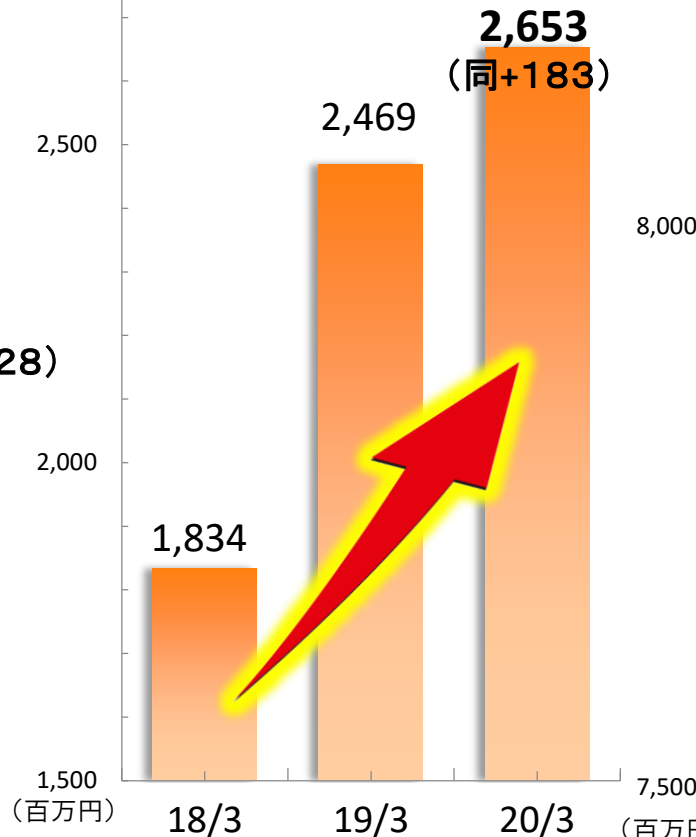
貸出金利息

(18/3期比▲214百万円)



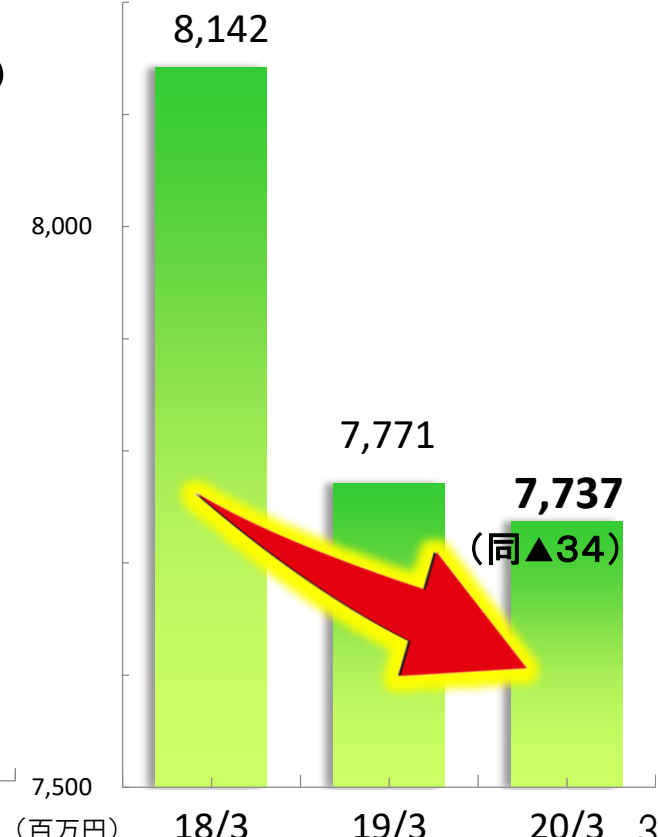
受入手数料

(同+819百万円)



営業経費

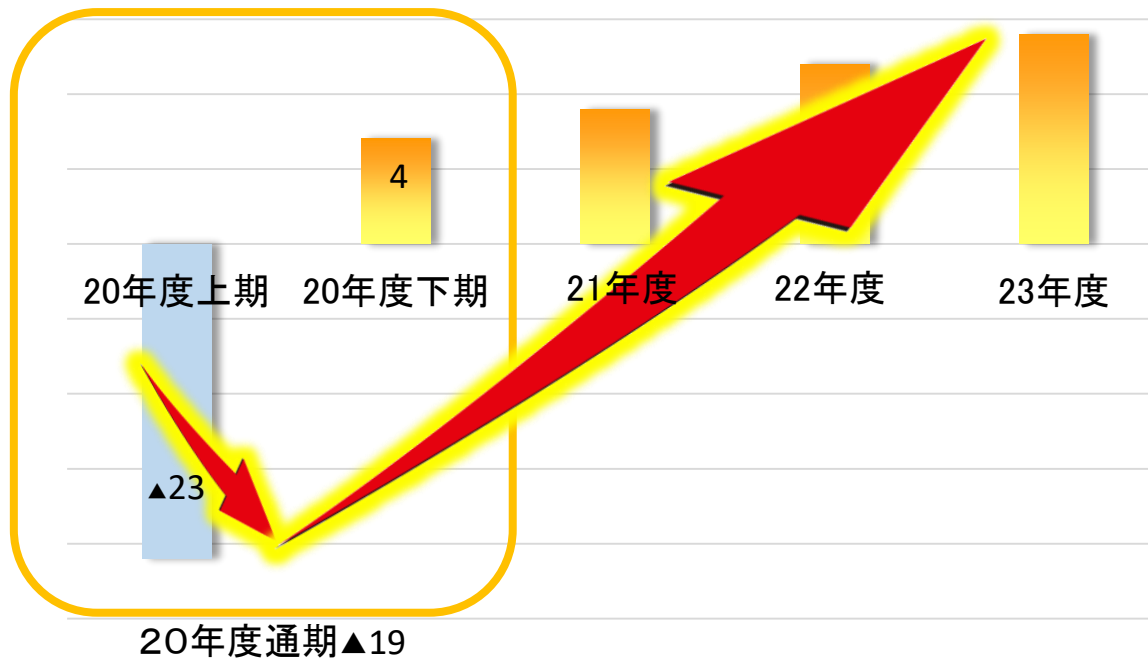
(同▲404百万円)



1. (4)ふくぎんV字回復プランの概要

- 「新生ふくぎん3Cプロジェクト」の着実な進展により、本業収益が大幅に改善。
- 抜本的な収益構造の転換に向け、コロナ禍により今後発生する可能性のあるコストを前倒しで処理。
 - ① 20年度上半期で有価証券含み損を一掃、SBIグループと協業し有価証券ポートフォリオを再構築
 - ② 信用コストの増加に備え、追加で損失計上
- これにより将来に向けて安定的な収益を確保し、業績のV字回復と復配を目指す。
- お客さまの支援、地域経済の活性化・地域創生に貢献する。

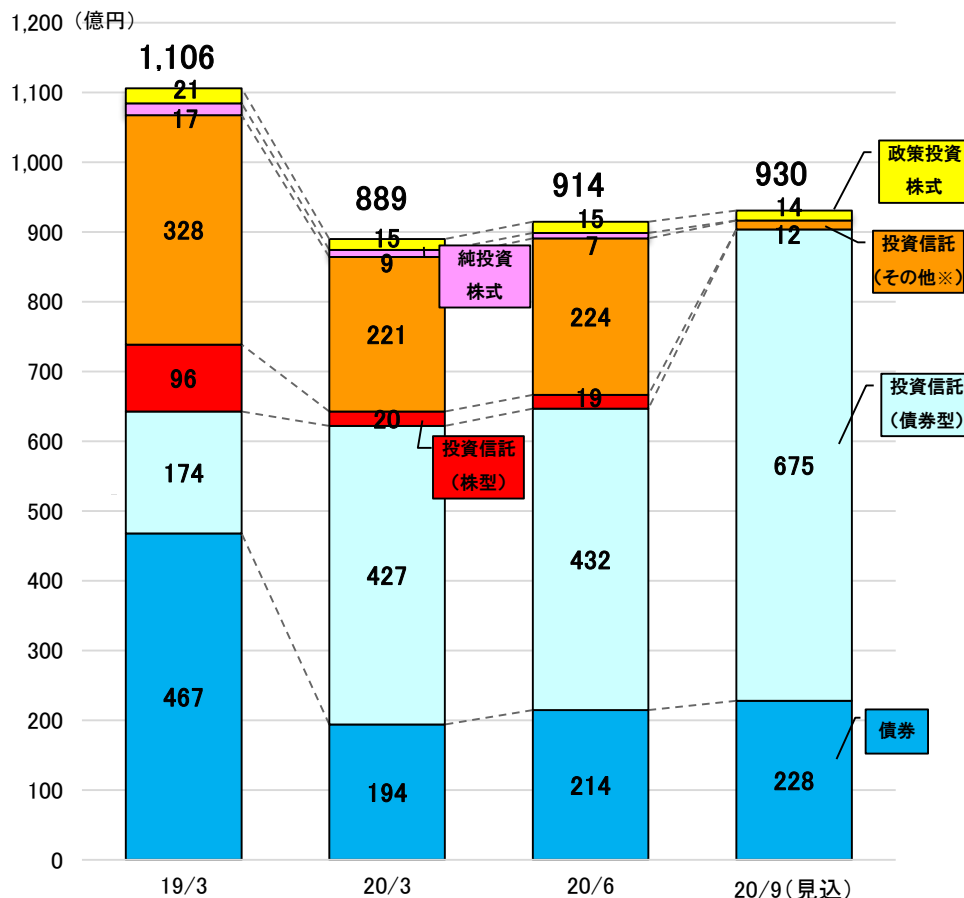
当期純利益の推移目標 (億円)



1. (5)有価証券運用の大幅な見直し

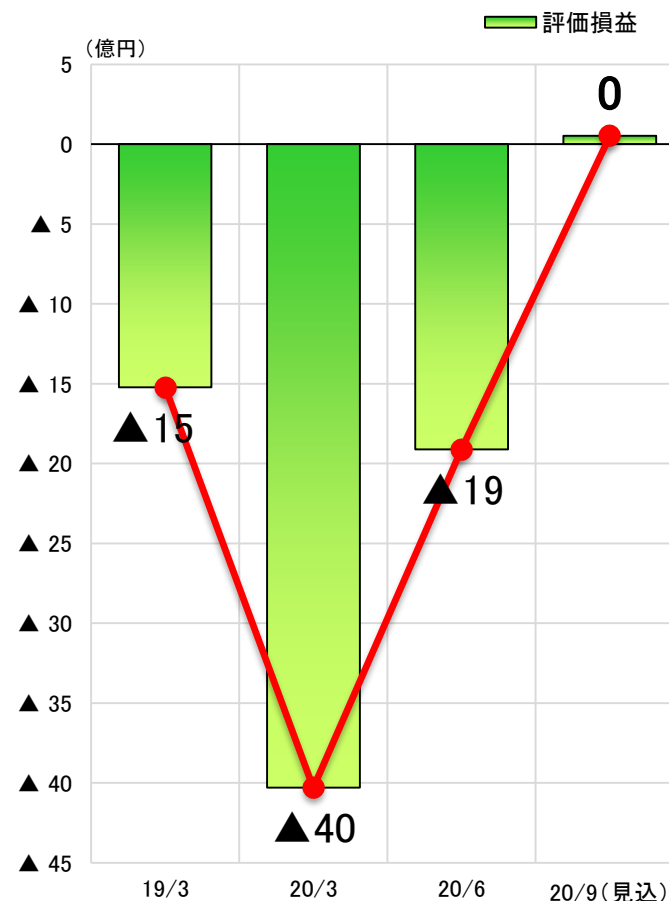
- 有価証券のポートフォリオについて一部政策投資株式を除き、債券中心の運用に変更。
- 純投資株式や投資信託を売却し、評価損を一掃。損失額は通期で16億円程度。

その他有価証券残高の推移



※投資信託(その他)・・・オルタナティブ、出資金等

その他有価証券評価損益の推移



新型コロナウイルスの感染は世界規模で拡大しており、先行を見通せない状況にあります。

コロナ禍が地域経済に及ぼす影響は、不透明であり、深刻化、長期化する懸念があります。このような状況に備えるため、今後発生する可能性のあるコストについて、次の事項について前倒しで処理をいたします。

(1) 有価証券運用の大幅な見直し

- 有価証券のポートフォリオについて、債券中心の運用に切り換え、SBIグループの運用ノウハウの活用により安定収益を目指します。
- 純投資株式や投資信託を売却し、評価損を一掃します。
- 損失額は通期で16億円程度を計上する見込みです。

(2) 信用コストに備えて予防的引当金を計上

- コロナ禍が当行の貸出債権に与える影響は不確実性を増しております。今後、当初の想定を超えて発生する可能性のある信用コストに備えるため、数億円程度の損失計上を見込みます。

(3) (1)、(2)の新たなコストの発生により2021年3月期の当期純利益は19億円程度の赤字を見込んでおります。なお、貸出金利息、手数料収入は対前年度比増加、また営業経費については同減少を予想しており、本業収益は7億円を超える黒字を見込んでおります。

(4) 配当について

2021年3月期の配当は、誠に遺憾ではございますが無配とさせていただく予定です。

(5) 健全性について

自己資本比率は単体で7.4%程度、連結で7.8%程度を見込んでおり、バーゼル3国内基準(4%以上)を上回る見通しです。

1. (7) 2021年度以降の収益見通しおよびSBIグループからの支援 福島銀行

2021年度以降の収益見通し

- 有価証券運用につきましては、債券中心の運用にすることにより、損失の発生の可能性は低下。また、引当金を計上することにより、信用コストの備えも充実、これらにより赤字要因の懸念は著しく低減されます。
- 2021年度以降につきましては、5億円を超える当期純利益が見込めV字回復は可能であると考えており復配を目指してまいります。
- コロナ禍で苦しむ地元のお客さまの支援に一層注力し、積極的な貸出金の供給を通じて地域経済の活性化・地域創生に貢献してまいります。

SBIグループからの支援

- SBIグループとは2019年11月に資本業務提携契約を締結し、これまで「福島銀行SBIマネープラザ郡山」「福島銀行バンキングアプリ」「SBIレミットとの海外送金サービス」「住信SBIネット銀行の住宅ローン取扱」など各種協業を進めてまいりました。
- 今回のV字回復プランについては全面的なご理解を得ており、次の点について支援頂くこととしております。
 - ・ 業務提携、協業の強化
 - ・ 有価証券運用に関する人材育成を含めたバックアップ
 - ・ その他全面的な支援

2. 2020年6月期決算状況

コロナ禍の影響を受け有価証券損失や不良債権処理費用の発生により赤字を計上するも、本業収益は黒字を確保。自己資本比率は単体7.68%、連結8.08%と健全性は十分確保。

(1) 決算の状況

- 経常収益は2,402百万円と前年同期比▲175百万円の減収。業務純益は▲13百万円と同▲30百万円の減益。当期純利益は▲734百万円の赤字、同▲863百万円の減益。コア業務純益は54百万円、本業収益は5百万円の黒字。
- 主な赤字要因
新型コロナウイルス感染症の拡大により、経済活動に与える影響が多岐にわたり、深刻化しています。当行においても、コロナ禍による株式市場の大幅な変動や地域経済の停滞に伴う不良債権の発生により、第1四半期は大幅な赤字となりました。
 - ・ 有価証券の減損処理(政策投資▲465百万円)や純投資株式のロスカット(▲172百万円)
 - ・ 不良債権処理費用(▲142百万円)の発生

(2) 本業収益について

- 貸出金残高は前年同期比515億円増加により、貸出金利息は同73百万円増加。
- 預金と預かり資産合計残高は同400億円増加。受入手数料は私募債発行手数料の増加などから同8百万円の増加。
- 物件費(同▲57百万円)や人件費(同▲7百万円)の削減により、業務費用は同▲45百万円の減少。

(3) 健全性について

- 自己資本比率は単体7.68%、連結8.08%で、バーゼル3国内基準(4%以上)を大幅に上回っております。また、金融再生法開示債権比率は1.81%で低水準を維持しており、健全性は十分確保されております。

* コア業務純益…業務純益－(国債等債券売却益・償還益－国債等債券売却損・償還損・償却)＋一般貸倒引当金繰入

* 本業収益…コア業務純益－投資信託解約益

2. (1) 損益状況

(単位:百万円)

	2020/6	2019/6	前年同期比
経常収益(①+⑦)	2,402	2,577	▲175
業務収益①	2,349	2,425	▲75
貸出金利息	1,566	1,492	73
有価証券利息配当金	188	344	▲156
(A)投信解約益	48	46	1
受入手数料	582	574	8
国債等債券売却益②	—	—	—
業務費用③	2,362	2,408	▲45
預金利息	43	45	▲2
支払手数料	302	303	▲1
一般貸倒引当金繰入④ (※2)	46	—	46
国債等債券償還損・償却⑤ (※1)	21	56	▲35
営業経費	1,949	2,002	▲52
人件費	903	911	▲7
物件費	858	916	▲57
業務純益⑥(①-③(金銭の信託見合費用除く))	▲13	16	▲30
(B)コア業務純益{⑥-(②-⑤)+④}	54	73	▲19
本業収益(投信解約益除くコア業務純益)(B)-(A)	5	26	▲20
臨時収益⑦	52	152	▲99
株式等売却益	—	1	▲1
償却債権取立益	20	14	5
貸倒引当金戻入益	—	105	▲105
臨時費用⑧	768	54	713
個別引当金繰入額 (※2)	96	—	96
株式等売却損・償却 (※1)	638	21	616
臨時損益⑨(⑦-⑧)	▲715	97	▲813
経常利益⑩(⑥+⑨)	▲728	114	▲843
特別損益⑪	▲0	19	▲19
法人税等⑫	5	5	▲0
四半期純利益(⑩+⑪-⑫)	▲734	128	▲863

○ 20年6月期は減収減益。本業収益は黒字化を達成。

○ 業務収益は2,349百万円。前年同期比▲75百万円の減収。

- 貸出金利息は、貸出金平残の増加により同+73百万円の増加。
- 有価証券利息配当金は、利回りの低下や平残減少により同▲156百万円の減少。
- 受入手数料は、保険販売や私募債発行手数料の増加から同+8百万円の増加。

○ 業務費用は2,362百万円と、同▲45百万円の減少。

- 国債等債券償還損・償却は、ロスカット等の影響から同▲35百万円の減少。
- 営業経費は、物件費の減少などから同▲52百万円の減少。

○ 業務純益は▲13百万円となるも、コア業務純益は54百万円、本業収益(投信解約益を除くコア業務純益)は5百万円を確保。

○ 経常利益は▲728百万円、四半期純利益は▲734百万円と大幅赤字を計上。

○ 赤字要因は、新型コロナウイルス感染症の影響による有価証券の減損処理やロスカットの実施(※1)659百万円貸倒引当金の計上(※2)142百万円

2. (2) 貸 出

- 事業性貸出は、新型コロナウイルス感染症の影響により相対型融資が急増し、前年同期比＋494億円の増加。
－ 事業性貸出におけるコロナ対策融資の実行額は、6月末で235億円。
- 消費性貸出は、住宅ローン(同＋141億円増加)が堅調に推移し、同＋129億円の増加。
- 貸出金利息は、貸出金平残が増加したことにより15億円(同＋0.7億円)。

貸出 残高推移

(億円)

	2019/3	2019/6	2020/3	2020/6	前年同期比
事業性	2,219	2,190	2,561	2,685	494
相対型	1,659	1,617	1,742	1,846	229
私募債	160	172	255	273	101
市場型	399	401	563	565	164
消費性	1,797	1,817	1,920	1,947	129
住宅ローン	1,491	1,514	1,624	1,655	141
消費者ローン	286	285	278	276	▲9
総合口座貸越	18	17	17	15	▲2
地公体	1,018	1,032	935	946	▲85
その他	186	185	163	162	▲22
合 計	5,220	5,226	5,580	5,742	515
平 残	5,120	5,174	5,255	5,585	410
貸出金利息	60	14	60	15	0.7
事業性融資先数	4,880	4,838	5,117	5,135	297

事業性貸出における コロナ対策融資実行推移

(億円)

		20/3月	20/4月	20/5月	20/6月
融資実行 累計	件数	88	167	500	1,045
	金額	17	39	110	235
うち プロパー 累計	件数	35	54	69	90
	金額	6	12	18	44
うち 保証協会 累計	件数	53	113	431	955
	金額	10	26	92	191

2. (3) 預金(NCDを含む)・預かり資産

- 預金と預かり資産を合わせた残高は、前年同期比＋400億円増加し8,128億円。
- うち、預金残高は、同＋439億円増加し7,295億円。預かり資産残高は、同▲39億円減少し833億円。
- 預かり資産の販売額は、保険が同＋7億円増加したものの、投信は基準価格の下落などにより同▲14億円の減少。
- 預かり資産の販売手数料は、保険販売などにより同＋6百万円増加し2億円と順調に推移。

預金＋預かり資産の残高推移

(億円)

	2019/3	2019/6 第1四半期	2020/3	2020/6 第1四半期	前年同期比
預 金	7,285	6,855	7,181	7,295	439
個 人	4,928	4,953	4,902	5,016	62
法 人	1,760	1,419	1,789	1,765	346
地公体	429	444	445	473	29
預かり資産	889	872	814	833	▲39
投 信	416	397	306	325	▲71
保 険	432	438	475	479	40
公共債	40	36	32	29	▲7
合 計	8,174	7,727	7,996	8,128	400

預かり資産 販売額推移

(億円)

	2018年度 第1四半期	2019年度 第1四半期	2020年度 第1四半期	前年同期比
投 信	35	41	27	▲14
保 険	21	18	25	7
公共債	0	0	1	1
合 計	58	59	54	▲5

預かり資産 販売手数料推移

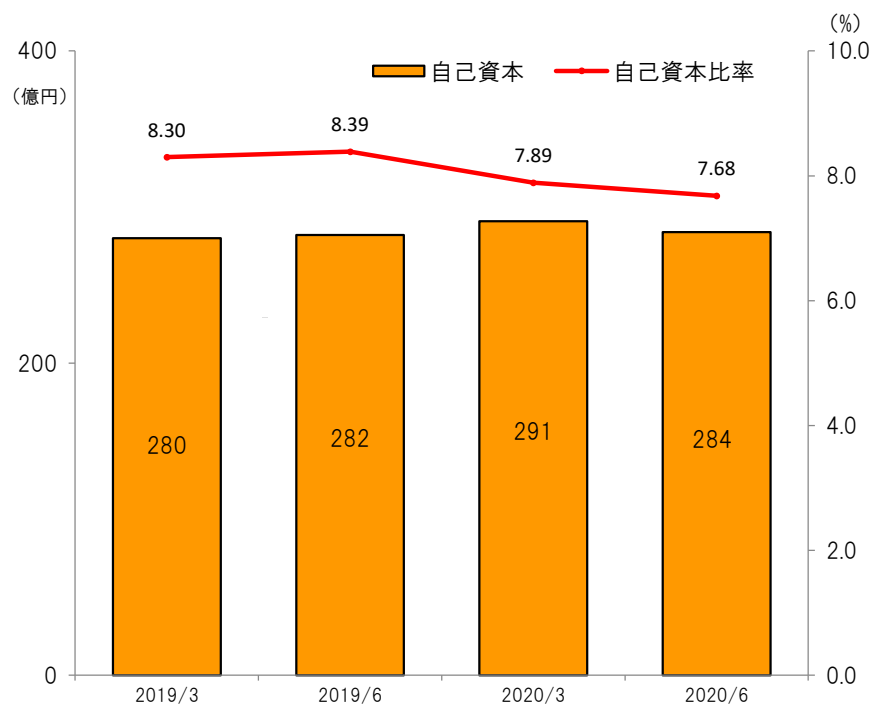
(億円)

	2018年度 第1四半期	2019年度 第1四半期	2020年度 第1四半期	前年同期比
合 計	1	1	2	0

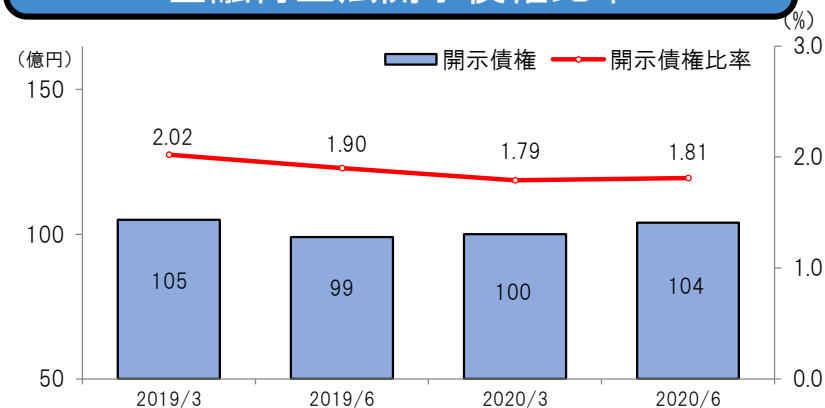
2. (4) 健全性

- 自己資本比率は、当期利益の赤字などにより7.68%(前年同期比▲0.71%)と低下したものの、国内基準(4%以上)を大幅に上回る水準を維持。連結自己資本比率は8.08%。
- 金融再生法開示債権は、不良債権の増加により104億円(同+4億円増加)。金融再生法開示債権比率は、1.81%(同▲0.09%)と低水準を維持。
- 与信関連費用は、コロナ禍による不良債権処理費用が増加し1.4億円(同+2.4億円の増加)。

自己資本比率



金融再生法開示債権比率



与信関連費用(▲は戻入)

(※)一般貸倒引当金繰入額+個別貸倒引当金繰入額
+貸出金償却等一貸倒引当金戻入額

19/3	19/6	20/3	20/6	前年同期比
4	▲1	0	1	2

(億円)

2. (5) 2020年度(2021年3月期)の決算予想

- 2020年度(2021年3月期)は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で発生する可能性のあるコストを前倒しで処理するため、当期純利益は▲19億円を見込んでおります。
- 2020年度(2021年3月期)の配当は、誠に遺憾ではございますが無配とさせていただく予定です。

○ 2021年3月期予想

		(億円)		
		19/3月期 実績	20/3月期 実績	21/3月期 予想
単 体	経 常 収 益	108	113	109
	経 常 利 益	2	4	▲20
	当 期 純 利 益	3	3	▲19
連 結	経 常 収 益	128	134	130
	経 常 利 益	5	4	▲19
	親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	5	4	▲19

(お問い合わせ先) 株式会社福島銀行 総合企画部 猪股徹也、市川清人 TEL:024(525)2525 FAX:024(536)5338

本資料には、将来の業績および計画等に関する記述が含まれております。こうした記述は、将来の業績に影響を与える不確実な要因によって将来実現する補償はなく、実際の結果と大きく異なる可能性があります。また、事業戦略や業績など、将来の見通しに関する事項には、一定のリスクや不確実性等が含まれております。